

江田郡八幡社拜殿建修後之種書

江田郡八幡村

一氏神寺八幡社拜殿

一理或百年 但為甚目

右寺田村氏神寺八幡社拜殿柱朽換存如近年之
之地之原方損之其成也亦云下之通四方不助極之
乃其原之方亦不難為法亦在檢之云云此後之被

あまの山崎の村々は北極古事なりしありて難に極極極

禱りて其の難に安んずるなりや其の難に極極極極極

原極極建修後之種書

極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極

一、此地の事、其の難に極極極極極極極極極極極極極極極極極

一、高年者、其の難に極極極極極極極極極極極極極極極極極

お調り、其の難に極極極極極極極極極極極極極極極極極

建修、其の難に極極極極極極極極極極極極極極極極極

幸蒙不友乃用傳之矣夫曰社境也之遠在元成り

別修古類可上之物多矣事亦甚促乃之古備。夜草

有之者其美亦備。然之類判乃之其亦之其可也採

其間也。其美亦備。然之類判乃之其亦之其可也採

乙三月

抄之七

[Faint bleed-through text from the reverse side]

乙三月
右之友
乙三月

幸蒙不友乃用傳之矣夫曰社境也之遠在元成り

別修古類可上之物多矣事亦甚促乃之古備。夜草

有之者其美亦備。然之類判乃之其亦之其可也採

乙三月

乙三月

乙三月

沼田郡
古後村

此通存

本
三
海
集

沼田郡古後村八幡社速名足採成り此種書附

元 沼田郡古後村

八幡山

採成り此本 一張三行

採成り此本 一張三行

採成り此本 一張三行

採成り此本 一張三行

元成り七年

右天向村中種上八幡社速名足採成り此種書附

沼田郡八木村上ミ八幡社拜殿建替之儀御願書付

沼田郡

八木村

覚

一氏神上ミ八幡社拜殿

梁式間半

桁三間

但瓦葺

右者 当村氏神上ミ八幡社拜殿柱朽損居候処、近年度々之地震ニ而大損ニ相成、御承知被下候通、四方方助柱を入置候得共、是又最早難持堪此余捨置ニ而ハ只様大破ニおよび相崩候時者 丸堤古木等も取用ひニ難相成様押移り可申哉 与嘆ケ敷奉存候二付、氏子共申値碎崩古木取添柱替建替仕度段、一統同意ニ御坐候間、当御場合柄之儀ニ者 御座候得共、前段振り合不得止儀ニ御座候、勿論下地有来り之場所へ其俣相建申方二付、外差障り之義ハ一円無御座且又諸入用之義ハ氏子限り少々宅出之合せ相調可申候間、何卒御格外之御慈悲を以前段之通建替之義、御赦免被為成遣候ハ、千万難有仕合可奉存候、尤入用伐木之義者同社境内之建木元伐り別段御願可申上候、就而者 来早春作間ニ相調申度奉存候間、呉々も御憐憫之状判断を以相之取計候様

只様(たださま)ひたすら、もっぱら
振り合い 他との比較、釣り合い
有来り もとのまま、今ままでお
作間 農閑期

幾重ニも宜敷被仰上可被下候、為其書付を以奉申上候、已上

已十二月

氏子惣代

惣七

同

久七

同

惣右衛門

同

平兵衛

当分庄屋

正三郎殿

庄屋

忠左衛門殿

与頭中

前書之通願出申候二付、得斗相しらへ申し候処、相違無御座候、此余難捨置不得止得ニ御座候間、何卒願之通早々御赦免

被為仰付被下候様奉願上候、為其書付取次此段御願
奉申上候、已上

巳十二月

当分庄屋

正三郎

庄屋

忠左衛門

与頭

平左衛門

同

弥五郎

同

善右衛門

沼田郡

御役所

式通差上候事

沼田郡八木村上ミ八幡社建替足材木元伐り御願書附

沼田郡

八木村

覚

細野新宮 高式十間
桁式十五間

一 八幡山之内

杉元伐り式本

長三間已下
廻り三尺已下

桧元伐り壺本

長三間
廻り三尺五寸

槻元伐り壺本

長三間
廻り三尺

松元伐り三本

長三間半已下
廻り三尺五寸已下

元伐りベ七本

右者当村氏神上ミ八幡社拝殿柱朽損居候処、

近年度々之地震ニ而及大破、最早難捨置ニ付、古木取合せ

柱替建替仕度奉存候間、前段之通足材木八幡山之内

ニ而何卒元伐り之儀御赦免被為成遣被下候ハ、難有

仕合可奉存候、尤来春作間ニ建替申度奉存候間、御格

外之御慈悲を以、早々相叶候様、幾重ニも宜敷仰上

可被下候、為其書付を以御願奉申上候、以上

巳十二月

氏子惣代

惣七

同

久七

同

惣右衛門

同
平兵衛

当分庄屋

正三郎殿

庄屋

忠左衛門殿

与頭中

前書之通願申候ニ付、得斗相しらへ申候処、少シも相違無
御座候間、何卒願之通早々御赦免被為仰付被
下候様奉願上候、為其書付取次御願奉申上候、已上

巳十二月

当分庄屋

正三郎

庄屋

忠左衛門

与頭

平左衛門

同

弥五郎

同

善右衛門

花房清之丞様

石川金弥様

佐々完六様

式通差上ケ候事